

出会いに働かれる神

著者	中村 謙一
雑誌名	キリスト教と諸学 : 論集
巻	Volume30
ページ	129-132
発行年	2017-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1477/00002351/

出会いに働かれる神

中村 謙一

ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」

ルカによる福音書一七章二〇—二二節

諸教会とキリスト教学校の連携を深めていく事に賛成を表明致します。諸教会とキリスト教学校の連携が生み出す様々な出会いには、目には見えなくとも、神の御支配が及んでいます。与えられた聖書箇所、ルカによる福音書の一七章二一節にある「神の国」の「国」とは、古代ギリシア語の「バシレイア」であり、これは「支配又は統治」という意味があります。従って、ここでは「神の国」は「神の御支配」とも訳せます。神の御子、十字架と復活の主イエス・キリストの到来を信じる故に、「神の国」又は「神の御支配」は、主イエスが宣言されておられるように、私たちの間に、又は諸教会とキリスト教学校との間に、両者の連携の上にまで及んでいます。「実に、神の国（神の御支配）はあなたがたの間にあるのだ。」という主イエスの御言葉は、今も、「力」を持って、私たちの出会いの

中に働いています。私たち諸教会は、出会いに働かれる神、主イエスの御支配を信じる故に、キリスト教学校から教師と生徒が礼拝や集会にやって来て、諸教会の教職、役員、長老、信徒、そしてCS教師らと出会って下さる事を、強く望んでいます。主イエスの到来を喜びと感謝を持って信じる故に、諸教会とキリスト教学校の連携が益々広がり深まり、一人でも多くの者が主イエス・キリストの十字架と復活の福音を聞き、救いに近づけられることを祈っています。

実に、父・子・聖霊なる三位一体の主なる神は、聖書を通して御自身の聖なる御名を自己啓示され告知され、私たちの名を呼び、出会って下さる人格的なお方であります。父なる神は、モーセに「ありてある者」という御名を明かされ、モーセを「モーセよ、モーセよ」と、その名で呼んで下さいました。イエスという御名を明かされた御子なる主イエスは、マグダラのマリアを復活の現場において「マリア」とその名を呼んで、信仰の目を開いて下さいました。そして、御霊なる神、聖霊は諸教会とキリスト教学校の連携が生み出す「出会い」を通して、連携に関わる者すべての名を今も呼び続けて下さっています。人格主義的神学で知られるエミール・ブルンナーは、「ブルンナー著作集第二巻、教義学Ⅰ」の一六〇頁で「名前を告知する事は、交わりを設定する事である。それゆえ、名前の告知は、啓示者の自己犠牲において完成される」と言っています。諸教会とキリスト教学校との連携は「出会い」という具体的な主にある交わりを設定します。その交わりを完成して下さいるのは、十字架において、自己を犠牲にして下さった啓示者、神の御子、主イエス・キリスト御自身であります。私たちは、生徒だけでなく、キリスト教学校の教務教師やクリスチャン教師の皆さんにも、今まで以上に教会やCSの礼拝に説教者、奨励者、証し人として御迎えする事を強く望んでいます。

私が以前お仕えしていた日本キリスト教団亀戸教会では、ここ数年の間に中高生科クラスから三名の堅信者が与

えられました。これは、諸教会とキリスト教学校の連携による出会いに、神の御支配の力が働いて下さったからであると信じます。聖学院からも、ここ数年の間に、菊池順先生、木戸健一先生、高橋恵一郎先生、濱田辰雄先生が亀戸教会に来訪され、大人の礼拝だけでなく、チャーチスクールの礼拝でも御話し下さいました。出会いは、生徒に関わる出会いだけではなく、キリスト教学校から来訪された教師とその教会のCS教師又は信徒らの間にも起こり、神の御支配の力が働き、主にある同労者の伝道意欲を高めたと思われるます。「生徒だけでなく、どうか先生も諸教会へ送って下さい！」神の国、神の御支配の力が私たち同労者の間にあつて働かれるためです。主イエス・キリストの到来を待ち望み、準備する故に、であります。

実は、私も、中学三年の時に、あるキリスト教学校から遣わされた太田俊雄先生という教務教師と出会って人生が変わりました。太田先生は当時、特別伝道集会に呼ばれて亀戸教会に来訪していたのでした。それはまさに、教会と学校の連携によって生み出された機会でありました。ところが私は、「就職して教会を離れよう」と考えていたので、伝道集会には出ていませんでした。しかし、教会の牧師館に帰って来たところで太田先生と出会ってしまいました。太田先生は、「謙一、待っているぞ！」と私の名を呼び、声をかけ、握手をして下さいました。私は握手をしている太田先生が誰であるのかも知りませんでした。今思い起こせば、この時の「出会い」が私の人生を劇的に変えました。私は就職でなく高校進学に関心を持ちました。そして太田先生が教えるキリスト教学校を目指し、入学をする事ができました。太田先生と同じ新潟にある教団の教会へ出席し、高校一年生の時に亀戸教会で洗礼を受けました。太田先生とのあの握手一つが私を変えたのでした。その場で何が起こったのかはうまく説明できませんが、同じ事は皆さんにも起こると、私は信じています。キリストが御支配されている時、出会いは用いられるのであります。

これから、諸教会とキリスト教学校の連携が益々強められ、主によつて恵まれ祝福されます事を心から祈つて
います。諸教会の伝道の前進と聖学院を含めたキリスト教学校すべての主にある教育の御業のために、心を一つに
して共に祈つて参りましょう。短いですが、これで教会側からの発表を終わります。

(二〇一六年六月二十日、「教会と聖学院との懇談会」発題)